



## できごと

今年度の国際子ども図書館児童文学連続講座が、平成20年11月10日と11日の2日間の日程で開催されました。今回の講座の総合テーマは、小澤俊夫氏監修による「日本の昔話」でした。昔話は、語られている時間の間だけに存在し、始まったら終わりまで語られる時間的文芸である、また、聞き手がやがて語り手になる伝承文芸でもある、などの昔話の基礎から、昔話が私たちに発信しているメッセージ、昔話の日本各地の分布や、中国を中心としたアジアでの広がり、日本の多様な語りの文化など、昔話の奥深さや、昔話を後世に伝える我々の責任を痛感した、大変意義のある講座でした。  
(裏面にて、概要を紹介します。)

## 子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です！

- 「ゆきだるまの絵本」(1月16日まで)
  - 「卒園・卒業と入園・入学の本」(1月17日から)
  - 「静岡県読書ガイドブック『本とともに』おすすめの本」
- 新着図書も常時展示中です。

## イベント情報

画家・原田泰治氏 講演会 演題：「一本の道」

『とうちゃんのトンネル』など、多数の著作がある、画家・原田泰治氏の講演会です。

日時：平成21年2月8日(日)13時30分開演  
会場：静岡県島田市川根町家山1173-1

島田市川根文化センター・チャリム21

お問い合わせ先：島田市立川根図書館 TEL：0547-53-2289

整理券を配布します。1人2枚まで、先着700人です。

配布場所：島田市立島田図書館・金谷図書館・川根図書館

## 新着図書から

### 絵本

『これがほんとの大きさ！』



続 古代の生きものたち

スティーブ・ジェンキンス/作

佐藤 見果夢/訳

評論社

2008年7月

今や図鑑や博物館などでしか見ることができない古代生物たち。彼らがもし身近にいたら、どのぐらいの大きさになるのだろうか？本書では、これら古代生物たちを実物大の切り絵で再現している。恐竜や翼竜など迫力あるものから、トンボ・ゴキブリの祖先など奇妙なものまで様々だが、その生物の特徴を切り絵で上手に表現しており、不思議と愛着も感じられる。巻末に掲載生物の解説つき。動物を扱った正編の『これがほんとの大きさ！』も刊行中。【小学校低学年から】 (渡辺勝)

### 物語

『しゅっぱつしんこう』



渡辺 茂男/作

堀内 誠一/絵

あかね書房

2008年7月

前作『ふたごのでんしゃ』では、路面電車が「こどもとしょかん」に生まれかわった。本作では、さらに、バス、山手線の電車、長距離列車、郵便自動車が、子どもばかりか大人まで楽しむ図書館となる。そしてついに、富士の裾野に合掌造りの「こどもとしょかん」と「こどもびじゅつかん」を含む「なつやすみのくに」が完成し、世界中の子どもたちが楽しく過ごした。

子どもたちを喜ばせようと、大人たちが繰り広げるスケールの大きな展開が爽快。1971年刊の復刊。【小学校低学年から】 (鈴木由)

## 講座報告『日本の昔話』 過去から現代へのメッセージ

**講**義から、小澤俊夫氏の「昔話の語りの様式」  
**講**「昔話からのメッセージ」を紹介します。

**昔**話の語りの様式

**昔**《語り口の様式》文体は簡単明瞭、シンプルでクリアーです。「昔々あるところに…」などの発端句で始まり、場所、時代、人物は不特定に語られ、最後は、「どんどはれ」などの結末句で終わります。これは、この話がおとぎ話ですよ、うその話ですよということを暗示し、世界的にも共通です。

《孤立的》昔話は、主人公や敵対者、大道具、などを孤立的に語ります。人物は1人で登場し、他者と対する場面は1対1で構成されます。これは、耳で聞いたことを頭の中で絵に変換する余裕を与える語り手の配慮で、この変換する力が空想力、想像力だということです。

《実態を抜く》《図形的に語る》「馬方山姥」では、馬方が山姥から逃れるために馬の足を切りますが、どのように切ったか、血が出たか、などの具体的な描写はありません。昔話では、体を切紙細工のように語る、という表現がよく表していると思います。昔話は残酷だという考え方に対しては、子どもは自分を主人公と同一化し、主人公が最後にどうなるかに集中しており、最後に幸せになればよいので、残酷なことは、言わば幸せへゴールするための試練なのです。主人公との同一化は、子どもの人格形成に必要であり、小澤氏は、子どもの感受性を阻害するような大人の押し付けを強く戒めています。

《同じ場面は同じ言葉で語る》昔話には、3回の繰り返しが多く、ほとんど同じ言葉で語られます。子どもは、もう知っているものと出会いたがっています。なぜならば、成長とは未知の世界へ入っていくことであり、その不安や心細さを救うのが、既知のものとの出会いによる安心感なのです。これは、聞き手である子どもの魂の安定した成長にとっても大事なことだそうです。

このように、昔話の秘密や魅力はどこに隠されているかわからないので、創作を加えずそのまま伝えることを大事にしてほしい、昔話を語るときや、絵本を選ぶときは、昔話の大事な伝承がよい形で残っているものを選んでほしいとのことです。

**昔**話からのメッセージ

**昔**昔話は、「子どもが変化しながら成長するさま」「命のあり方」「人間と自然との関係」を語っているということです。「三年寝太郎」は、悪知恵も知恵のうち、「強く生きる!」という過去から現代へのメッセージであり、「シンデレラ」は自分の真の美しい姿とダークな自分の間を揺れ動く若者の姿、「わらしべ長者」は、自分が獲得しているものと合致するものと出会ったときに次のステップに成長するという成長のプロセスを語っています。このように、昔話は子どもや若者の成長する姿を、いふなれば、民族の記憶、人類の記憶として我々に見せてくれるのだということです。

子どもたちが、まっすぐ生きるためには、愛されている、信頼されている、価値が認められているという自覚が必要で、そのために大切なことは、親が子どもにお話を聞かせること、絵本を読んであげることであり、その時には、生の声で、ひざの上など体温が感じられる近さで聞かせることだそうです。お話会などが、かえって親と子を引き離す結果にならないように、このことを啓蒙して欲しいという、小澤氏からのメッセージを最後にお伝えします。

### 所蔵資料から

#### 研究書



『ろばの子 昔話からのメッセージ』

小澤 俊夫 / 著

小澤昔ばなし研究所

2007年9月

\* 閲覧室 (388/オサ)

「ろばの子」「灰かぶり」「桃太郎」などの昔話を通して、昔話が私たちに語る子どもの成長を読み解く。

(牧田)

\* 表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。